

■「赤ペン添削 HB」アイコンについて

「申請書の書き方」に特化し、実例を多く盛り込んだ「科研費申請書の赤ペン添削ハンドブック」(児島将康／著)が、本書の姉妹書として発行されています(詳細は巻末の広告ページを参照)。そこで本書の3章、4章に右図のようなアイコンを加えて、この姉妹書の参照箇所を示しました。よろしければ併せてご活用ください。



■「速報」コーナーについて

科研費の制度は、審査の区分やしきみが変わったり、研究計画調書(申請書)の構成が変更になったりと、常に変化を続けています。次々と更新される制度に対応するため、第6版でも、本書の発行後に発表される科研費の最新かつ重要な情報を「速報」として児島先生にフォローしていただきます。

具体的には羊土社HPにて、下図のようにご解説いただく予定です。研究者が知つておくべき科研費情報を隨時ご紹介いただきますので、ぜひご活用ください。

【速報】
平成30年度公募の要点と申請書の書き方：その1 (2017.09.05掲載)

1. 科研費改革の要点

例年通り、9月1日に来年度(平成30年度)の科研費公募がはじまった。今回は科研費の制度が大きく改革される年である。その改革(変更点)の要点をまとめると図1のようになる。

- ①研究種目の見直し
 - ・若手研究(A)の廃止
- ②審査システムの見直し
 - ・審査システムと審査区分の変更
- ③新たな応募書類(研究計画調書)への変更
 - ・枠線・罫線がなくなった
 - ・研究目的と研究計画が1つの項目になった
 - ・発表年に関わらず業績を自由に記入できるようになった
 - ・「研究経費とその必要性」「研究費の応募・受入等の状況」がWEB入力になった

図1 平成30年度からの科研費改革の要点
クリックして拡大

2. 平成30年度公募用の申請書の項目と書き方

この速報では、「科研費獲得の方法とコツ 改訂第5版」では詳しく触れられなかった来年度からの新しい申請書への対応について解説していく。

平成30年度の申請書(研究計画調書)は、これまでの申請書とかなり異なる。体裁として罫線・枠線がなくなるとともに、これまで別々の項目だった「研究目的」と「研究計画・方法」が、1つの項目「1 研究目的、研究方法など」にまとめられた。また、これまで「研究目的」や「準備状況」に分かれていた部分も、「2 本研究の着想に至った経緯など」として1つになった。従来の申請書に慣れた研究者は戸惑うかもしれないが、よくチェックするとこれまでのものとそれほど大差はないので、安心することだろう。

ここでは申請者が多い若手研究と基盤研究(C)のフォーマットに合わせて、どのように申請書を構成していったらいいのか、その案を示していく。なお、今回「その1」では「1 研究目的、研究方法など」を、2017.09.06掲載予定の「その2」では「2 本研究の着想に至った経緯など」を解説する予定である。

※画像はイメージです。実際にはデザインを変更している可能性がございます。

科研費の「速報」は以下URLよりご覧ください。

www.yodosha.co.jp/kakenhi